

で開かれた。初日の午後には公開記念講演・公開シンポジウム、総会が行われ、2日目には午前から午後にあたる4部会が設けられた。今回の公開シンポジウム「日本のムスリム社会」は国際人口移動者を扱ったもので、大塚和夫教授（東京都立大学）の司会のもとに以下の4報告が行われたが、いずれも非常に興味深い内容で、討論も盛り上がっていた。

井上あえか（東京大学）：「日本におけるパキスタン人：歴史的動向」

山岸智子（明治大学）：「イラン人の日本体験」

桜井啓子（学習院女子大学）：「日本のムスリム移民：定住化へのスペースづくり」

内藤正典（一橋大学）：「西ヨーロッパのムスリム移民～共生の課題とは何か」

他方、人口に多少とも関係する一般報告としては以下の四つがあった。大河原報告は歴史人口学的分析として興味深いものであった。

松沢祐子（東北大学・院）：「バングラデシュの家族計画」

小島宏（国立社会保障・人口問題研究所）中東諸国における血族結婚の比較分析

三尾真琴（中部大学・非常勤講師）：「ディアスポラと民族教育：レバノン・シリア・イランにおけるアルメニアコミュニティの比較から」

鈴木均（日本貿易振興会アジア経済研究所）：「ルースター・シャフル：革命イランにおける農村部小都市の形成」

なお、来年の大会は5月10～11日に別府市の立命館アジア太平洋大学で開催される予定である。

（小島 宏記）

比較家族史学会第41回研究大会

日本比較家族史学会（会長：鎌田 浩・専修大学名誉教授）の第41回研究大会（実行委員長：岩本由輝・東北学院大学教授）が2002年5月25日（土）～26日（日）の2日間にわたって岩手県遠野市の「あえりあ遠野」で開催された。ほとんどの研究報告は多かれ少なかれ柳田国男著『遠野物語』ないし遠野に因んだものであった。しかし、第2日目の午前には人口研究とも関連が深い生命倫理に関する小シンポジウムが前回大会に続き開催された。今回は上杉富之・成城大学助教授により生殖技術に対する各研究分野からのアプローチを軸に組織され、日本人口学会会員の太田素子・湘北短期大学教授も「歴史研究から見た生殖技術を巡る諸問題」と題された報告を行った。（小島 宏記）

国連人口開発委員会第35回会合

本年4月1日から5日までニューヨークの国連本部において国連人口開発委員会第35回会合が開催され、国立社会保障・人口問題研究所からは阿藤誠所長と小松隆一研究員が政府代表団の一員として参加した。今回の特別テーマはHIV／エイズを含むリプロダクティブヘルス／ライツであった。本年の議長国としてはイタリア、副議長国に日本、ガーナ、ジャマイカが選出された。

第34回会合の議長であった阿藤社人研所長によって開会されたあと、開会の辞として、Nitin